

## 自分の夢を絶対に諦めない

彭博

2013年7月、私は天津美術学院工芸デザイン専攻を卒業した後すぐ来日し、現在多摩美術大学大学院美術研究科に在学しています。日本語学校の生活はあっという間に過ぎてしまいましたが、自分の歩んできた道を振り返ってみたいと思います。桜が咲く季節は日本の卒業式、入学式に迎える季節でもあります。日本語学校で過ごしたこの一年半は、色々経験をして、多くの収穫もありました。

日本に来たばかりの頃、何も知らない環境の中で生きていくことだけで大きなプレッシャーを感じました。亜細亜友之会外語学院に来た日から、校長先生と石川先生の行き届いた生活面のサポートを頂きました。先生方のおかげで、すぐ日本の生活に慣れてきました。

最初は大学院受験のことについて何も知りませんでした。先生と先輩から色々話を聞いて、やっと研究計画書が必要だということがわかりました。欧米の実践を重視するような修士課程ではなくて、日本の大学院では実践と併行して理論的な研究も必要です。そのため、作品を作りながら、自分の研究計画書も書かなければなりません。

大学院の入学試験が近づいて、私はほぼ毎日教務室に行って、先生から個人指導を受けました。日本語に自信があまりなかった私にとって、面接試験のことを最も心配していました。面接練習を通じて、面接の礼儀作法、質問の答え方など細かく指導して頂きました。試験までに、先生方に数回面接練習をして頂き、少しずつ自信が付いてきました。そのほかに、自分の研究計画書に関しては、本当に先生方に一文ずつ訳して戴き、何回も何回も修正して頂きました。締切日の前日の夜遅くまで、表記の乱れ、文字の大ききまで丁寧に添削して頂きました。

以下は私の受験の経験談です。

1. どんな専攻であれ、まず日本語をしっかり勉強することです。聞く・話す・書く・読むといった四技能をバランスよく身につけたほうが良いと思います。
2. 自分の信念を固持することです。教授にこの人が学歴のために進学したいと思われぬようにしてください。
3. 日本人の教授は基本的に誰に対してもとても親切に接して下さいますが、教授の親切さを勘違いしないように、きちんと自分をアピールしてください。
4. 面接の時に、緊張しすぎないことです。自分の言いたいことのポイントを抑えて、後は多少の日本語のミスがあっても過剰に気にする必要はありません。
5. もし最初に受験した学校に落ちたとしても、長く引きずらないで、すぐ切り替えることが大切です。試験というのは運の要素もあるので、自分に合う学校が絶対に見つかるはずですよ。

今日の私があるのは全て先生方のお陰です。本当にお世話になりました。ここでもう一度心から感謝を申し上げたいと思います。